

# I 調査の概要



## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、国や調布市の動向を踏まえ、アンケート調査、住民懇談会等により市民の生活実態や地域の福祉に対する意識や意見、ニーズを把握し、次期の「調布市地域福祉計画」、「調布市高齢者総合計画」、「調布市障害者総合計画」を改定する際の基礎資料とすることを目的とする。

### 2 アンケート調査の概要

#### (1) 調査方法

郵送配布—郵送回収（督促礼状1回送付）

#### (2) 調査時期

平成28年10月11日（火）～10月27日（木）

#### (3) 調査の一覧

調査名		調査対象者		回収率	
		調査対象範囲	調査人数	有効回収数	有効回収率
調査1	調布市民の福祉意識と地域生活に関する調査	18歳以上64歳以下の市民	2,000人	731	36.6%
調査2	高齢者の生きがいと地域生活に関する調査	65歳以上の市民	2,000人	1,339	67.0%
調査3	障害のある市民の地域生活に関する調査（18歳以上）	①身体障害者手帳所持者（65歳以上）	450人	322	71.6%
		②身体障害者手帳所持者（64歳以下）	450人	236	52.4%
		③愛の手帳所持者	300人	179	59.7%
		④精神障害者保健福祉手帳所持者	300人	149	49.7%
		⑤難病患者	300人	200	66.7%
調査4	障害のある市民の地域生活に関する調査（18歳未満）	障害者手帳（身体、知的、精神）所持者、難病患者を主にサポートしている方	200人	122	62.5%
合計			6,000人	3,281	54.7%

### 3 住民懇談会の概要

#### (1) 目的とねらい

住民懇談会は住民の意見をお聞きすることで、福祉3計画の改定等の基礎資料として活用することを目的に、以下の3つのねらいのもと実施した。

- ◆ 住民自らが住んでいる地域について主体的に話し合う場を提供し、そのことで住民が地域の福祉課題等を認識し、どう取り組むとよいか考えるきっかけとする
- ◆ 人口推計等の資料を提示し、調布市の将来像を検討する機会とする
- ◆ 将来像を見据えた上で地域に必要な拠点、住民同士でできる支え合いを検討する

#### (2) 開催日時と参加者数

多くの方に参加していただくため、同様の内容で東西南北で、①平日の夜と②土日の昼間の2回ずつ開催した。

地域 (会場)	日時	参加者数			
		市民		社会福祉 協議会	計
		男	女		
東部 (仙川ふれあいの家)	①11月14日(月)18:30~20:30	3	5	1	9
	②12月10日(土)13:30~15:30	6	16	1	23
西部 (総合福祉センター)	①11月15日(火)18:30~20:30	8	4	1	13
	②12月11日(日)9:30~11:30	7	5	1	13
南部 (総合福祉センター)	①11月16日(水)18:30~20:30	7	8	1	16
	②12月10日(土)9:30~11:30	8	7	1	16
北部 (総合福祉センター)	①11月17日(木)18:30~20:30	7	4	1	12
	②12月11日(日)13:00~15:00	5	4	1	10
合計		51	53	8	112

## 4 ミニアンケートの概要

### (1) 調査の目的

より多くの市民の福祉ニーズを把握するため、より身近な地域で、社会福祉協議会が主催している「小地域交流事業」の場を利用して、ミニアンケートを実施した。

※小地域交流事業とは、地域の中で一人ひとりがお互いに支えあい、助け合って健康な生活が送れるような「集いの場」づくりや、地域の特徴をいかした世代間交流活動のこと。

### (2) 調査方法

社会福祉協議会と地域が行っている小地域交流事業の来場者向けに実施し、会場で記入していただいた。

### (3) 調査会場・事業・実施日・調査人数

会場	事業名	実施日	調査人数
西部地域福祉センター	西部ふれあいのつどい	2016年10月09日(日)	82人
下石原地域福祉センター	下石原地区ふれあいのつどい	2016年10月19日(水)	64人
調布ヶ丘地域福祉センター	調布ヶ丘わくわく広場	2016年10月29日(土)	87人
若葉小学校	入間はつらつ地域まつり	2016年10月29日(土)	56人
こころの健康支援センター	布田わくわくひろばまつり	2016年10月30日(日)	81人
緑ヶ丘地域福祉センター	緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい	2016年11月06日(日)	71人
調和小学校	金子ふれあいまつり	2016年11月13日(日)	62人
菊野台地域福祉センター	菊野台地区地域まつり	2016年11月23日(水)	43人

## 第2章 報告書のみかた

### 1 本報告書を読むにあたっての留意事項

- 「回答者数」について  
それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN (Number of cases), それ以外の場合にはnと表記している。
- 図表の単位について  
回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率 (%) で示している。% は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合 (例えば99.9%, 100.1%) がある。  
また、回答者が2つ以上回答することのできる質問 (複数回答) については、% の合計は100.0%にならない。
- 図表における選択肢について  
図表の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。省略していない選択肢は、339ページからの「資料編」の調査票を参照のこと。
- 集計方法について  
この報告書では、以下の3つの集計を行っている。
  - ① 全体集計  
回答者全体、もしくは質問に該当する人全体のみで集計した結果である。
  - ② クロス集計  
上記①の全体集計をさらに男女や年代ごとに詳細に集計した結果である。なお、集計の柱となる項目の「無回答」は掲載を省略している。したがって、集計の柱となる項目の回答者数の合計は、全体と一致しない。
  - ③ 自由回答の整理  
自由回答は、項目ごとに分け件数を数えた後、主な意見を抜粋して掲載している。

## 2 居住地域の分類について

本報告書においては、市内の小中学校区 20 区を東西南北の 4 地域に分類し、集計・分析を行っている。



